

「インド・フィールドワーク報告書」

京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科

修士課程1年 宮園 琢也

① 学習成果

次の二点にまとめることができる。第一が、語学力の向上である。ヒンディー語については、前期授業で履修し、基礎的な文法を習得したが、現地における会話を通してより実践的な語学能力を習得することができた。

第二が、研究テーマに関する調査の進展である。今回の調査では、自身の研究テーマである「現代インドの宗教暴動におけるメディアの役割」について、インドのニューデリーと、ウッタル・プラデーシュ州のムザッファルナガル、シャームリーにおいてフィールドワークを行った。ニューデリーでは、デリー大学のダスグプタ教授、ジャワハルラール・ネルー大学（JNU）のチュノイ教授、ジャミア・ミリア・イスラミア大学のタベレーズ博士のオフィスにおいて、フィールドワーク計画や研究方針などについての、具体的かつ詳細なご指導を賜ることができた。このように自らのテーマについて初めてフィールドワークを行うことで、今後の研究の進め方についても明確な目標を得ることができ、次の段階へ進む意欲がわいた。

② 海外での経験

海外での長期に渡るフィールドワークは初めての体験であり、滞在先の確保や、体調不良時への対応など苦労はしたが、現地でのカウンター・パートの先生をはじめとして調査協力者の方々から様々な形で助けていただいた。調査に当たっても、デリーにあるジャワハルラール・ネルー大学の学生の方々から調査助手を快く引き受けてくれ、順調に調査を行うことができた。調査のみならず、大学の寮で現地の学生たちと親交を深めたり、調査協力者の方の自宅に招待してもらって親交を深めるなど、インド社会について短期の滞在では得られないより深い濃密な経験を積むことができた。

③ プログラム内容

2016年8月2日～9月20日の期間で、インドのニューデリーと、ウッタル・プラデーシュ州ムザッファルナガル、シャームリーにおいてフィールドワーク調査と語学研修を行った。8月～9月14日にかけて、ニューデリーでNational Institute of Science Communication and Information Resourcesに勤めるChief Scientistの方に、メディアの影響や今後のメディアの方向性についてインタビューを行うことができた。また、JNUに在籍するインド人学生との日常会話を通してヒンディー語の能力が向上した。9月15日～20日にかけては、ムザッファルナガルとシャームリーにおいて研究テーマに沿ったインタビューを行った。ムザッファルナガルでは、現地の新聞社を5社訪問し、そこに勤める記者の方や編集者の方から、2013年に起こったムザッファルナガル暴動に関するインタビューや、マスメディアの持つ影響力に関する認識についてのインタビューを行った。シャームリーでは、暴動の被害者がいまだに避難生活を送っている地区にバスで移動し、実際に被害者に当時の状況に関するインタビューを行った。

④ 進路への影響

進路への影響について、次の二点を挙げる事ができる。第一に、語学力の向上を通じて、次回以降のフィールドワークを行う技術を身につけることができた。第二に、今後のフィールドワークを存分に展開していく上で必要な人的ネットワークの構築に成功した。以上を踏まえ、博士予備論文（通常の修士論文）の完成へ向けて、今後ともより一層研究を推進する所存である。